



◇発行所  
鳥城会事務局  
TEL 03 (3668) 2111  
◇編集・印刷所  
はんこ広場日本橋店  
TEL 03 (5651) 2088

### 総会報告

## 石破議員をお迎えし盛大に

### 郷土の思い出話に大喝采

平成23年度鳥城会総会は、11月5日(土)に恒例のとおりアルカディア市ヶ谷(旧私学会館)において開催されました。西高からは鈴木洋志鳥取西高副校長と美田康彦総務部長にお越しいただき、西尾公孝同窓会副会長、大場尚志鳥取県東京本部部長、八村義郎東京東雲会(鳥取東高同窓会)副会長、東京県人会会長、そして特別ゲストとして当番幹事の西高26期生(昭和50年卒)と鳥大附中同窓の石破茂衆議院議員を来賓にお迎えして、鳥取一中(55期生)から西高(西高55期生)までの幅広い世代から87名のご参加をいただき、盛大に行われました。



壇上で鏡開き

総会では、篠田伸夫会長のご挨拶に続き、林田達郎事務局長からの一年間の活動と会計の報告、次年度の計画と予算の説明があり承認されました。総会終了後、会長、ご来賓を囲み、世代ごとに4つのグループで記念撮影(3面に写真)を行いました。続いて、石破議員から故郷、今後の日本への思いなどを、

その後、鳥取の地酒「稲田姫」で鏡開きを行い、谷尾侃様(一中55期)に乾杯のご発声をお願いして懇親会に移りましたが、随所で昔話、故郷話に花が咲いておりました。酒樽は県西部から東京に展開する居酒屋チェーン「稲田屋」様からのご芳志によるものです。また、今年選歴を迎える西高21期にご登壇いただき、代表して竹内鳥取市長からご挨拶をいただき、筋目をお祝いすることが出来ました。

最後は、次期幹事の27期生に同窓会旗を引き継ぎ、元応援団長の神谷さん(西高11期)のエルン(西高11期)のエルンにより校歌の斉唱で幕を閉じました。不慣れた幹事団でありましたが、お力添えいただいた諸先輩、そしてご参加いただいたご来賓及び同窓会員の皆様から御礼申し上げます。(当番幹事 武田太老)

5月26日(土)、東大駒場キャンパス内の会場で、西高19期生小島憲道東京大学副学長を講師に迎えて、「人物から眺めた東大歴史探訪」と題して勉強会が開かれました。当日はやや汗ばむくらいの陽気です。当日は、31名の鳥城会メンバーが参加いたしました。平賀譲、内田祥三、矢内原忠雄という3人の歴代総長と時代背景を、貴重な資料及び記録とエピソードを入れて、スライドを使っての興味深い話でした。

平賀譲(第13代・1938~1943)は海軍技師でありながら東京帝国大学の教授を兼任した人物で、戦艦大和を設計したことで知られています。しかしながら第2次世界大戦中の1943年に現職のまま病死したため初め大学葬が行われ、総長でもありません。そのあと総長を引き継いだのが内田祥三(第14代・1943~1945)で、「内田ゴシック」と言われるデザインパターンの建物を大量に造り、関東大震災(1923年)後の東京大構内の復旧を主導しました。代表作は本郷キャンパスの安田講堂(震災前の着工で1925年竣工)です。安田講堂はその名の通り、安田財閥創始者の安田善次郎の寄贈によるものですが、善次郎は一名声を得るために寄附するのではなく、陰徳でなくてはならない」として匿名で寄附を行っていたため生前はこれらの寄附行為は世間知られていなかった話や、オノ・ヨーコは善次郎の曾孫であるという話も披露されました。戦後、新渡戸稲造の精神を受け継ぎ、東大の自由な学風・リベラルアーツ(人を自由にする学問)を推進したのが、矢内原忠雄(第16代・1951~1957)です。矢内原は「国家の理想」(中央公論)により戦争を批判したため、1937年に東京帝大の教授を辞職しています。しかし、1945年に教授に返り咲き、東大は国立大学法人で教養学部のある唯一の大学ですが、1949年に初代教養学部長となり、1951~1953年、及び1955~1957年の間、東大総長を務めました。最後には東大駒場キャンパスの施設の概要や教養学部の直近の取組みをご紹介頂いた後に、聴講者の方からの質問に小島副学長が丁寧に答えて頂き、約1時間半の講演は終了しました。講演後はそのまま懇親会が催され、出席者全員が自己紹介をする等、親交を深められたと思います。今後、鳥城会の定期的な会合として、各方面でご活躍のOBの方をお招きしての勉強会に参加できればと感じました。(西45回生 花房 幸範)

## 第2回勉強会開催

小島東京大学副学長を迎えて

### 平成二十三年度総会出席者 (敬称略)

◎来賓 鈴木洋志鳥取西高副校長(西高24期)、西尾孝孝鳥取西高同窓会副会長(西高13期)、美田康彦総務部長(西高27期)、石破 茂衆議院議員、大場尚志鳥取県東京本部部長、八村義郎東雲会会長(鳥取東高東京同窓会)

◎会員(鳥取一中)▽55期・谷尾 侃▽60期・上田明之、小泉準三、生田孝明▽61期・野口謙一、松田信穂

(鳥取西高)▽5期・林田達郎▽6期・竹中美津江▽7期・山口 元、岸本弘志▽9期・篠田英男、森下恭光、守屋正敏、久米澤喜一郎▽11期・神谷昭光、金子亮太郎▽13期・篠田伸夫、上根通史▽15期・三角幸子▽17期・藤岡政雄▽18期・山田雅行▽19期・坂本善博▽21期・安養寺信夫、石田順子、上山紀夫、小島憲道、竹内功、本川洋子、山脇彰子▽22期・矢野麗子▽23期・永美和憲、高木誠一、松葉悦子、稲垣恵子、片岡道子、吉田昭子、林 伸夫▽24期・清水広一郎、西垣 栄、山根伸吾▽25期・遠藤晴子、杉原 純、山代恵子、土井要子、戸田典良、森田光恵、山根恭子、米原貢代、安住真理子▽26期・石倉知子、霜村 穂、武田太老、岡 和宏、岡田淳子、岡本貞恵、丹根久司、木下孝明、加藤重雄、辻 智子、横田恭子、廣澤 遼、佐川典子、澤田嘉郎、高田 正、竹安由規男▽27期・井口靖浩、厨子彰英、尾崎一司、木島 修、高橋昭仁、中村潔子、中村由紀人、福田泰彦、細川 洋▽28期・武田博史▽31期・吉川桂子▽33期・山本直正▽39期・坂根康人▽42期・水口昌司、小倉亮子、西本伸一▽43期・前田 剛▽45期・鉄永正紀、花房幸範▽52期・木下 彩、岡 新照▽55期・住川和明

### 欠席された方々の近況など

総会を欠席された方々のうち、連絡ハガキの通信欄に近況などが書き込んであるものを選びました。なお、昨年10月時点の便りであることを(敬称略)

(鳥取一中)

三好 喬(54期)体調不調。

阪田義明(55期)年が年で出歩かなくなりました。

安木 茂(55期)足が悪くて毎日一日中椅子に座っています。

藤原謙二(56期)相変わらず近場を散歩しています。

美田 孝(56期)雲表の旅から山里の遊歩に切換えて山野草とカメラを楽しんでいます。

気です。願わくば生涯現役で行きたいと思っています。

村野兼雄(61期)腰痛がなかなか回復しません。

山本雄二郎(61期)土蔵からほこりにまみれの焼物を取り出してみたら、なかなかの値打ちもので驚いています。(鳥取西高)

(鳥取西高)

岸田汎正(西高1期)未曾有の大地震の余波が収まらぬ中80歳となりました。68年前の鳥取大地震では九死に一生を得ました

橋本邦雄(西高1期)80歳となりました。

西村和義(西高1期)相変わらず、中国、韓国との交流活動を続けていますが、日本の存在感が小さくなっているのが遺憾です。

福谷 實(西高2期)元気でやっています。

趣味の詩吟、書道に取り組んでいます。牧野和春(西高3期)自分流人間学を研ぎ究めるべく努めてるところです。

三田耕治(西高3期)地域を元気にするための活動に頑張っております。

小倉徹也(西高3期)身体が不自由になってきています。

山本 智(西高5期)今夏ハワイのハナウマ湾でシュノーケリングを楽しんできました。

渡部雄義(西高5期)元気に過ごしています。太田正幸(西高5期)サンデー毎日となり起床時の目標設定が日課です。

益田 貢(西高5期)手術後1年が経ちました。検診も無事終わり体力増強に努めております。

岡田 栄(西高5期)76歳となりました。どこも悪いところもなく元気に過ごしています。横浜は散歩するところが多く楽しんでいきます。

田中 勉(西高5期)下手なゴルフと孫の放課後の面倒を見ています。

中田 悟(西高6期)極めて元気に過ごしております。

永田 昇(西高9期)呼吸器装着のまま療

養中です。和田美知枝(西高9期)“笑えてこらえて”というTV番組で西高音体部が取り上げられ、50数年前の自分を思い出し、踊ることから離れられず、今はフラダンスを楽しんでいます。

岡本昇太郎(西高10期)“受験必須英単語7500”の初版発行しました。

中谷俊博(西高12期)体調が今一です。

柳田皓一(西高14期)健康です。趣味のラオケ、囲碁を楽しんでいます。

田村玲子(西高15期)新潟と横浜を往復しています。

吉田弘己(西高16期)元気でやっています。

岡田一郎(西高16期)東都観光バスに勤務しています。

小林秀晴(西高18期)変わりなく元気です。

谷川由美子(西高18期)卒業後、父の転勤で鳥取を離れてしまいました。西高の頃がなつかしいです。現在、調剤薬局で週2回調剤をしております。

山本恵美子(西高19期)趣味の茶の湯を楽しんでいます。

大西雅夫(西高19期)相変わらずアクセクとしております。

本山由美子(西高19期)自分も年ですが、もっと年の姑を見えています。故郷の鳥取は大好きです。

西尾啓一(西高20期)なかなか仕事から足が洗えません。

戸崎博己(西高20期)足先表裏のしびれ解消として昨秋脊柱管狭窄症の対処手術を行いました。結局しびれは残り遠出するには難儀をしております。

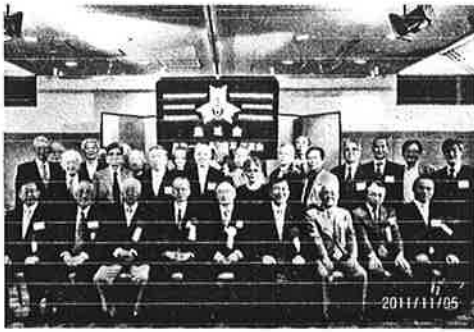
中川直子(西高21期)来年還暦を迎えます。いつも何か新しい事を始めたいと思っ

て今年からイタリア語を習っています。

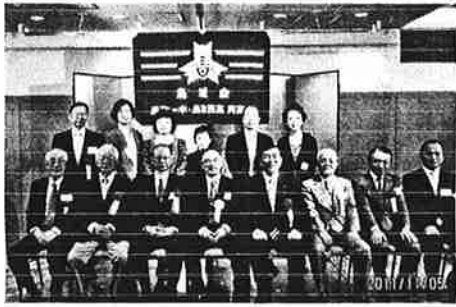
赤松幹男(西高21期)今夏「還暦の同窓会」があり、久しぶりに鳥取に行きました。

懐かしい面々と再会も嬉しく「これからも元気で頑張るぞ」と思った次第です。

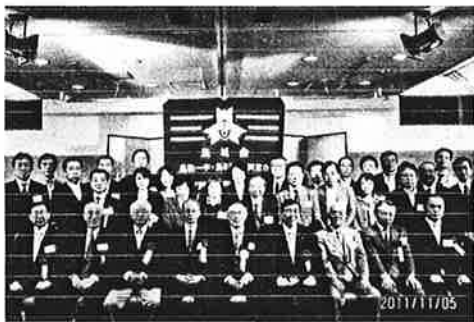
高田邦昭(西高21期)群馬大学の学長とし



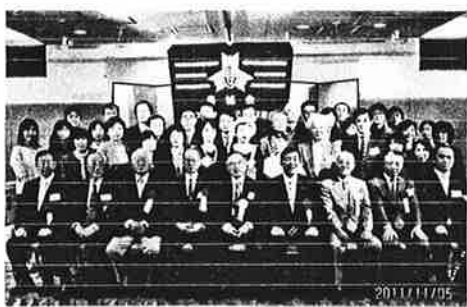
旧一中～西高19期のみなさん



西高21期のみなさん



西高22期以降のみなさん



西高26,27期のみなさん



懇親会で楽しく

て多忙な毎日を送っています。  
 神谷 滋・佳代子(西高21期)西高が鳥取城跡の現在の場所についてまでも存続することを願っております。  
 長尾克己(西高22期)会社も家庭も節電と省エネに注力しています。  
 竹田 稔(西高22期)元気に過ごしています。草野博道(西高22期)つくばの田舎でのんびり暮らしています。  
 福田 宏(西高23期)又、日立に外向となり東京駅前の本社に通勤しています。  
 大谷 純(西高24期)鳥取と東京を往復する生活をしています。  
 中村恭子(西高24期)「地学部」のミニミニ同窓会があり、38年振りに先輩に会うことが出来ました。  
 秦 裕子(西高26期)主人は沖縄で、私は東京でそれぞれ単身生活です。元気なおバチャマしています。  
 藤本敦子(西高26期)子供達が成人してしばらく経ちますが、2歳になる孫と3才の犬が「いやし」です。  
 吉田郁子(西高26期)小・中で同級生であった石破さんのご活躍に期待します。  
 梶谷利成(西高26期)金沢2年目となりました。サラリーマン人生も終盤となりました。

あと何回転動するのかわかっています。若井秀樹(西高27期)中古ゴルフショップを全国チェーン展開している(株)ゴルフ・ドゥという企業で、経営企画室長として勤務しています。  
 池田朱美(西高27期)一人娘が今春より社会人となり、私も日々元気に暮らしています。  
 近藤聖二(西高27期)旧姓広田です。現在千葉県に在任し成田空港に勤務しています。  
**母校の卒業式に出席した**  
 (西9回生 篠田 英男)

当日の朝、駅前のホテルから歩いて久松山下の学舎へ向かう。自分が通っていた頃の学舎、歩き回っていた頃の市内は50年以上の前のこと、様子が違うのは当たり前だが、雰囲気というか空気は変わらず、キョロキョロと途中の数十分間を楽しんだ。  
 学校では校長室に通され、式が始まるまで他のゲストの人達と歓談を。さて式はと言うと、大変に驚いたと言うか感心したのが、生徒達が式の初めから終わりまで美にしっかりと静粛を保っていたことです。昔を振り返って、自分達はこんなに紳士淑女的だったのだろうか?と。唯この静かさを、単純に喜んでばかりも居られない気がした。



篠田 英男 画

それは別な言い方をすると「大人しい」とか「強いエネルギーを感じない」になってしまいうからだ。つまり、この年代でしか出来ないガムシャラさを感じない、と言うことかな。そう言えば校長室での歓談の中で、「近頃、東大・京大への合格者が少ない」「甲子園にも、なかなか行けないな」などの、ため息混じりの会話がされていたのを思い出した。「やっぱり、文武両道だよ!」などと、マンガと言う軟弱な世界に飛び込んでくせに、感想だけは硬派でありました。  
 終わりに、私が祝辞にどんな内容の話をしたのかだの、この際大したことでは無いので割愛させていただきます。  
**会費納入のお願い**  
 (事務局)

皆様からの会費が鳥城会のさまざまな活動を支えています。紙で平成24年度会費(ただし80歳以上は免除)及びご寄付も各種イベント、会報の発行も順調に進行しております。

同封の郵便振替用紙で平成24年度会費(ただし80歳以上は免除)及びご寄付も合わせて納入していただくようお願い申し上げます。

# 東京の秋を満喫!!

## 新宿周辺の史跡を巡る

今回も前回に引き続き新宿方面を歩いた。3月11日に東日本大震災が発生。今回は中止すべきか迷ったが、家でジッとしてより外に出て心身を鍛えた方がいいのではと考え直し、10月16日(日)に決行。前回に続き新宿区役所勤務の杉原さん(西高25期卒)にガイド役をお願いした。午後2時に新宿御苑前駅に集合、15人が集まった。最初に足を向けたのが近くの

花園公園内にある円朝日居跡。落語「名人長二」はここで生まれた。明治21年から28年まで在住。次に源慶寺へ。単なる普通のお寺だが、寅さんに眠る。質素なお墓が好ましい。ちょっと足を延ばして成女学園へ。八雲旧居跡だ。ここから東大まで人力車で通った由。八雲が愛した近くの自証寺には弘安4(1281)年の板碑がある。余丁町へ足を延ばし、荷

風旧居・断腸亭跡へ。何と郵政宿舍に姿を変えていた。道を隔てた児童公園内の市谷監獄跡へも立ち寄る。歩道脇の横通居跡の標識を横目に抜弁天を抜け、大久保大御用屋敷跡へ。綱吉のかの有名な悪政の跡。少々草臥れたところに格好の休憩所。小倉藩主・旧小笠原伯爵邸のスペイン風洋館。関口先輩が洋酒を奢ってくださる。一気に元氣回復。バックして専福寺にある明治の浮世絵師・月岡芳年のお墓へ。次いで、大聖院にある「山吹」の歌で有名な道灌の歌の友・紅皿のお墓

へ。隣の西向天神へ。寄った後、只管歩いて靖国通りに面した成覚寺へ。ここは三ノ輪の浄閑寺と同じく、遊女の投げ込み寺で有名。江戸の戯作者・恋川春町のお墓に参ったところで史跡巡りは終了。後は足早に新宿三丁目の「栄寿司」へ。大いに飲み、食い、語り合っただけ無事半日の旅は終わった。(リクレーション担当 篠田 伸夫)

# 京都の名園を訪ねて(雑感)

(西18回 吉田政雄)

5月の連休の翌週の土日、丁度修学旅行のシーズンの中でしたが、1年振りですと京都の庭園巡りをしました。最初に訪問したのは天龍寺です。無窓国師が造営した世界文化遺産にもなっている名園です。禅寺の座敷から眺めると、曹源池の背後に広がる山の木々の連なりが借景とまり、緑の一大空間をなしています。

畳に座り、縁側越しに庭園を眺めると、次第に時間が止まったような静謐な感覚にとわられてきます。禅の世界の内考の仕掛けに嵌ったのかもかもしれません。煩惱の絶えない競争社会であくせくしている自分に対して、何か自分の立ち位置はこれでいいのかと考えさせられるような霧困気があります。曇と曇だけで何の装飾もない大広間から、外の曹源池の景色をじっと眺めていると、俗人でも「無」の疑似体験をしたような感覚になるから不思議です。その後、歴史に名だたる無窓国師の力量を体感したような気分、庭をめぐって天龍寺の北門を出ました。天龍寺の北門を出ると、「竹の道」につながっています。道の両側ともに天空に伸びるような孟宗竹の林です。自分たちを含め観光客がいなければ、日本面の絵の世界を歩いているような霧困気です。

「竹の道」を上り詰めてT字路の交差する場所に、地味な別荘風の門があります。これが「大河内山荘」の入り口です。往時の時代劇の名優大河内傳次郎が30年もの歳月をかけて、私財を注ぎ込んで造った現代の名園です。「小倉百人一首」で有名な小倉山の南面の山容を思う存分取り入れて、要所に建物を配しています。モミジやカエデの萌え出る新緑の色合いが、光線の加減で時間や風とともに微妙に移ろう様は、日本ならではの自然美といえましょう。とりわけ、月香庵から見た京都市街の景色は、文字通り「絶景」です。また、観光客も余り多くないようですので、旅好きの方へ、新緑もしくは紅葉の頃の京都の隠れた「名所」としてお勧めです。

### 平成23年度決算報告(概要)

収入の部	支出の部	
年会費	総会費	710,372
総会会費	名簿発行発送費	0
受取利息	通信費	37,170
広告費	慶弔費	0
寄附金	事務用品費	0
雑収入	役員会・幹事会等費	296,705
	レクレーション補助費	82,065
	会報発行費	269,474
	事務局費用	117,250
	諸手数料等雑費	0
	予備費	0
収入計	支出計	1,513,036
前期より繰越金		
1,731,100		
合計	次期への繰越金	218,064
	合計	1,731,100

(注: 単位=円、会報発行費には郵送料などを含む)

### 平成24年度予算(概要)

収入の部	支出の部	
年会費	総会費	800,000
総会会費	名簿発行発送費	0
受取利息	通信費	50,000
広告費	慶弔費	0
寄附金	事務用品費	0
雑収入	役員会・幹事会等費	200,000
	レクレーション補助費	100,000
	会報発行費	300,000
	事務局費用	170,000
	諸手数料等雑費	50,000
	予備費	50,000
収入計	支出計	1,720,000
前期より繰越金		
1,720,064		
合計	次期への繰越金	218,064
	合計	1,938,064

(注: 単位=円、会報発行費には郵送料などを含む)



スペイン風洋館の前で



栄寿司で乾杯